

元気に、お出かけしよう!!

仲宿地区 寺社巡り Map



で愛・ふれあ愛・たすけ愛
支え合い会議 仲宿地区

第1版 令和2年3月



はじめに

この「寺社巡り Map」は、地域包括ケアシステムの7つの重点事業のひとつ「生活支援体制整備事業」で実施している取組の中で、生涯住み慣れた地域で元気に過ごすために必要な、高齢者が健康でいること、人とつながっていることを目標に積極的に外出して戴くための手段として、制作しました。地域の寺社には深く地域の歴史や人々と関わりがあるはずです。寺社の概要は記載しましたが、もっといろいろなことがあるはずです。そんなことを調べながら、楽しみながら巡って戴ければ老化の予防につながるのではないのでしょうか？

1. 本 Map は仲宿地区（8 町会）並びに近隣に所在する寺社を掲載しています。
2. 寺社にある番号は巡る順番ではありません。巡る順序はご自分の体力に合わせて無理の無いように自由に決めてください。寺社間の徒歩でのおおよその所用時間を載せていますが、あくまで目安です。
3. ウォーキングは有酸素運動のひとつで、脳の血流を増やすことなどから認知症リスクを低下させます。又、心肺機能を高めるのにも効果があります。
4. 高齢者のウォーキングの注意点

♡自分の体調や体力に合わせてマイペースで行いましょう。

♡体調がすぐれないとき、天候の悪いときは無理に行わず中止しましょう。

♡あまり距離や時間にこだわりすぎずに行いましょう。

♡ウォーキングの前後にウォーミングアップとストレッチを行いましょう。

♡屋外を歩くときは、思わぬ事故やけがが起こらないよう注意しましょう。

♡適度な水分補給を心がけましょう。

♡出来るだけ複数人数で行いましょう。

♡いざという時のために「見守りキーホルダー」を持参しましょう。

「見守りキーホルダー」を貰うには「おとしより相談センター」又は、お近く

「民生・児童委員」にご相談下さい。

（原則 65 歳以上の方が対象です）



見守りキーホルダーの申し込み 仲宿おとしより相談センター

〒173-0003 板橋区加賀 2-1-1（特別養護老人ホーム加賀さくらの杜内）

電話 5944 - 4611 FAX5944-4612

① 氷川神社（下板橋氷川神社） 詳細地図 11 ページ A-①参照



板橋区氷川町 21-8



境内の富士塚



氷川神社は、元久3年（1206）頃に領主豊島左衛門尉経泰が武蔵国一の宮氷川神社から当地に御分霊を勧請されたと伝えられる。江戸期には板橋が中山道の宿場町となり賑わい、下板橋村の鎮守社として祀られていたといひます。第八十三代土後門天皇の御代元久三年（一二〇六）頃、このあたりの領主豊島左衛門尉経泰が今の埼玉県大宮市の氷川神社から御祭神の素戔鳴命・稲田姫命の二柱の御分霊を奉じて石神井川畔の景勝の地、現在の場所にお社をつくった。豊島氏没落後は土地の住民により、中山道の親宿である板橋宿の鎮守として尊崇されてきた。明治二十二年火災のため焼失し文献資料社宝等一切を失なった。社殿は翌二十三年に再建されたが、今次の戦禍を蒙り又々全焼してしまった。昭和十九年御造営奉賛会が結成され三十二年九月に現在の社殿が竣工された。旧社格は明治五年十月九日村社に定められ、同六年七月五日郷社に列せられた。（「いたばしの神社」より）境内東南の高さ2m程、道路から高さ3mの場所に板橋富士（富士塚）があり、三峰神社や笠間稲荷の祠がある。（富士塚：江戸時代、富士信仰のために富士山の山体を模して造られた塚）・・・・・・9月第2土曜日・日曜日 例大祭

② 智清寺 詳細地図 11 ページ A-②参照



板橋区大和町 37-1



御本尊阿弥陀如来。宗派浄土宗。龍光山恵照院と称する。室町時代初期、見萱上人智清によって創建されたと伝える。天正19年（1591）徳川家康により寺領5石を寄進された御朱印寺である。境内には、板橋上宿の名主板橋市左衛門家歴代の墓碑や、明治初年前田家下屋敷払い下げに活躍した小松了従の墓碑、そして明治の歌人相沢朧の墓碑などがある。

山門前にある正徳4年（1714）の石橋は、江戸から大正時代に使用された中用水に架けられたもの。中用水は、農業用水として石神井川の水を分水したもので、明治5年板橋町と下流の上十条村以下7ヶ村との間で配水を巡って争い、板橋の農民が当寺に立てこもった。同石橋は、昭和60年度の板橋区登録文化財（史跡）に認定された。（板橋区教育委員会掲示より）

③ 日曜寺 詳細地図 11 ページ A-③参照



板橋区大和町 42-1



宗派は真言宗霊雲寺派で、光明山愛染院日曜寺と号し、御本尊は愛染明王です。

開山は、正徳の頃（1711-1716）に宥慶比丘が小堂を営んだのに始まります。その後、田安宗武（八代将軍吉宗の第2子）の帰依を受け、等身大の愛染明王像をはじめ多くの仏像や仏画、什器類が奉納され、寺として再興致しました。

現在、山門には独特の草書体で揮毫された額が架けられていますが、これは文化12年（1815）7月2日に宗武の子、松平定信が奉納したものです。太平洋戦争により伽藍や什宝類を焼失した当寺にとって、往時を現在に伝える唯一のもので、昭和60年度に板橋区有形文化財に登録されました。

愛染の語句から縁結びの仏として、また愛染が藍染に通じることから染色業の守り本尊として、古くから信仰を集めています。なお、境内にある水屋の手水鉢や石碑や寺を囲む玉垣は、染色組合の人たちが奉納したものです。（板橋区教育委員会掲示より）山門入り口ある橋は根村用水の流れていた跡。

④ 氷川神社（双葉町） 詳細地図 11 ページ A-④参照



板橋区双葉町 43-1



御祭神素盞鳴命、創建年代は不明であるが、社伝によると応永年間（1394-1427）に大宮氷川神社から勧請されたと伝えられている。当社は松山氷川大明神と称し、旧根村、板橋宿上宿の産土神として崇敬された。

相殿として祀られている倉稻魂命は、もと下板橋稻荷台の新堀山に鎮座していた新堀稻荷社で、板橋城廃城後、太田道灌の家臣新堀氏がこの地で奉斎したもの。下って、明治40年合祀令によって氷川神社に合祀された。（板橋区教育委員会掲示より）旧社格は昭和16年10月村社に列せられた。（「いたばしの神社」より）

⑤ 即得寺 詳細地図 11 ページ A-⑤参照



板橋区双葉町 23-4



松浦肥前守入道順覚の私費によって、慶長 13 年 8 月 20 日に越後国（現新潟市）に創建さる。伝えによれば、松浦家は松浦党の流れをくむもので北九州一帯に永く栄えた上代の豪族である。建立以来 12 世不着まで新潟市西堀通 8 番町 1587 番地にあったが、13 世現住職によって昭和 40 年 7 月 21 日に現在地に移転した。寺の古文書什器等は明治 13 年の新潟火災によって、一切を焼失したが本尊阿弥陀如来のみ難をまぬかれた。（いたばしの寺院より）

⑥ 福泉寺 詳細地図 11 ページ B-⑥参照



板橋区中板橋 29-2



宗派は曹洞宗で、自保山福泉寺と号し、御本尊は釈迦牟尼仏です。

即萬慧忍大和尚が寛保年間（1741-1744）に創建したとされますが、詳細な沿革は明らかではありません。昭和 17 年 11 月に埼玉県坂戸町関間新田より当地に移転してきました。

門前の地藏堂には、延享 3 年（1746）に造立された延命子育地藏が安置されています。このお地藏さまは昭和 20 年代に一時期商店街に移動され、これをきっかけに縁日が始まるなど、中板橋の復興にも大きな役割を果たしました。

当寺が移転して来る前、この辺りには石神井川の水を利用したプール（遊泉園）があり、その利用者のために夏季には臨時の駅が開設されました。その後昭和 8 年に常設となり、中板橋駅が誕生しました。

（いたばしの寺院より）

⑦ 正一位 山中稲荷大明神 詳細地図 11 ページ B-⑦参照



板橋区仲町36



山中トンネル



東上線の中板橋駅の踏切の脇にあるお稲荷さん。正一位というのは聖徳太子が作った冠位十二階が起源で、人物や神様の位を正一位から従一位、正二位とか順序をつけた。平安時代には藤原家というだけで、高い位についたが、その後は正一位というのはなかなか成れなかったし、正一位は亡くなった後に贈られる称号になったそうだ。豊臣秀吉は正一位だが織田信長は正二位だったので、大正時代になって初めて正一位になったというエピソードがある。現在では生きている人が正一位になることはない。一方神様は時代が下がると段々出世するので最後にはみな正一位になる。普通の神社ではわざわざ正一位というのは野暮なので、しないそうだが、伏見稲荷だけは正一位伏見稲荷大社だそうだ。さらに分祀された稲荷神社もみな正一位と名乗ることにしている。それで、山中稲荷も正一位ということだ。「山中」の意味であるが、かなり都会的な我が板橋区で、なんで山中なの？ 近くには「山中交番」「山中トンネル」（線路の下ガード）など「山中」がいくつもあつた。実はこれらは東上線の大山駅と中板橋駅のあいだにある。それで「山中」と云う説とこの地域の旧地名「字山中」からと云う説がある。

⑧ 専称院 詳細地図 11 ページ B-⑧参照



板橋区仲町44-1



宗派は浄土宗で、亀嶋山地蔵寺専称院と号し、御本尊は阿弥陀如来です。

むかし鎌倉時代の武将豊島清光が行基に7つの地蔵を作らせたという伝説があり、専称院の前身は豊島村（現北区）でそのひとつを祀る地蔵堂でした。

浄土宗の専称院となったのは、宝永年間（1704-1711）に豊島村民臼倉四郎右衛門の要請を受けた祐天上人によって中興され、堂宇の整備が進んでからです。荒川沿いにあったため、寛政12年（1800）水害の溺死者の供養塔が建てられるなど、水難者の供養寺としても有名でした。

専称院が都市計画道路建設によって豊島から当地に移ったのは昭和12年ごろのことです。

もともと当地には、江戸時代初頭まで乗蓮寺があり、その後も乗蓮寺に附属する香林庵が残っていました。香林庵は明治7年（1874）に区域で初めて公立の小学校が設置された場所ともされています。（板橋区教育委員会掲示より）

⑨ 轡(くつわ)神社 轡権現社 詳細地図 11 ページ B-⑨参照



板橋区仲町 46



もと轡権現社と呼ばれていました。名称の由来については、この地を訪れた徳川家康の乗馬のくつわを祀ったからとも、また馬蹄を祀ったからともいわれています。江戸時代から「百日ぜき」に靈験がある神として広く信仰を集め、遠方から参拝に来る信者で賑わったといえます。信者は病気の治癒を祈るとともに、当社に奉納されている馬わらじの片方と麻をいただいて帰り、全快すると新しい馬わらじと麻を当社に奉納しました。社前の道路は、俗に鎌倉街道といわれた古道で、この道が石神井川を渡るところが本来の「板橋」という説もあります。（板橋区教育委員会掲示より）

寿永年間の鎮座と伝える。治承の昔、源義経が奥州平和泉から鎌倉へ馳せ参する時、乗馬は疲れてゴホンゴホンと咳をしてたおれた。義経は新しい馬に乗って先を急いだが、村人たちは馬を葬り、そのくつわをはずしてまつったという説もある。

⑩ 大山福地藏尊 詳細地図 11 ページ C-⑩参照



板橋区大山 54



今から 150 年程前の江戸時代文化文政の頃、鎌倉街道と川越街道の交差点（現在の日大交差点）周辺では人馬の往来が絶えず、その為人馬が亡くなる事もしばしば。そこへお福さまという方が通りかかり、この様子をみて亡くなった人馬を手厚く葬ったという。この姿を見た恩田家の祖先の方がお福さまをいたく尊敬し、亡くなられた後にお地藏様としてお祀りをされた。建立された当初は、川越街道の商店街入口付近、その後、今のハッピーロード商店街中央付近の南側に移ったが、1953 年（昭和 28 年）に現在の場所に遷座し、その後本堂を改築して現在の形になった。お福さんのご命日は 8 月 13 日。毎年、朝 11 時から法要を行い、ご住職に「経」をあげて頂き、お参りに来られた方には、お菓子が振る舞われている。この 13 日に因んで 3 日、13 日、23 日が「お縁日」。（ハッピーロード大山商店街振興組合より）

⑪ 縁切り榎(俗称：榎神社) 詳細地図 12ページ D-⑪参照



板橋区本町18



縁切り榎は、榎大六天神社のご神木で、祀られている大六天は神道の神でなく仏教の神、天魔（てんま）という。天魔とは第六天魔王波旬（はじゅん）、より邪悪なもの、すなわち仏道修行を妨げている魔のことである。天子魔（てんしま）・他化自在天（たけじざいてん）・第六天魔王（あるいは単に魔王）ともいう。江戸時代、当地に旗本・近藤登之助石見守の抱屋敷があった。屋敷の垣根際に榎と槻の古木があり、そのうちの榎がいつの頃からか縁切榎と呼ばれた。榎は当社の御神木で、現在の場所の斜め向かい側あった。庶民の間では、悪縁は切ってくれるが良縁は結んでくれるというので礼拝の対象となっていました。男女の悪縁切り、断酒、難病治療といった願い事には、樹皮を削り取り煎じて飲ませるといふ、民間信仰があった。榎の下を嫁入り婿入りの行列が通ると不縁になると信じられており、徳川家に降嫁した皇女和宮の行列は迂回路（中山道と環状七号線の交差点の北50メートル辺りから根村という村（現・板橋区双葉町）を經由して日曜寺前の愛染通りに出て中山道に戻り仲宿に入る）を作り、ここを避けて通った。初代の榎は明治17年の板橋宿大火で焼失、その後二代目が植えられた。昭和47年、周辺の再開発に伴って旧社地から現在地に遷座することとなり、現在地に新たに植えられたのが現在の縁切榎(三代目)。

⑫ 文殊院 詳細地図 12ページ E-⑫参照

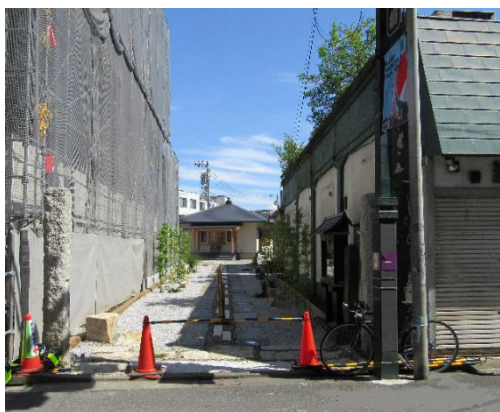


板橋区仲宿28-5



真言宗豊山派、幡場山大聖寺と号す。本尊は文殊菩薩。江戸初期、本陣飯田家の菩提寺として、古くから信仰を集めていた延命地藏尊の境内をひろげて建立された。開山は寛永2年（1625）に入寂の権大僧都慶恵と伝える。天保6年に全焼し、安政以降正住職を置かず、赴任する仮住職も短期間で他の大寺へ転住し、出世寺とも呼ばれた。山門脇に延命地藏堂、境内に二大閻魔を祀る閻魔堂、足腰の守り神として知られる子の権現がある。閻魔堂内には、文化年間に番場原出土と伝えられる石棒が朝日観音として祀られている。墓地には史跡として有名な宿場時代の遊女の墓がある。本堂内には、板橋七福神の毘沙門天が奉安されている。飯田家墓地の飯田静の墓碑は昭和63年度に、また本尊文殊菩薩は平成元年度に板橋区の有形文化財に登録された。（板橋区教育委員会揭示より）

⑬ 遍照寺 詳細地図 12ページ E-⑬参照



板橋区仲宿40-7



江戸時代は大日山と号し、区内唯一の天台宗寺院であったが、明治4年廃寺となった。その後明治14年旭不動堂と称して成田山新栄講の道場となり、昭和22年真言宗寺院として復活、現在は成田山新勝寺末寺となっている。境内は宿場時代の馬つなぎ場で、幕府公用の伝馬に使う囲馬、公文書伝達用の立馬、普通継立馬などがつながれてい。境内にまつられる寛政10年（1798）建立の馬頭観音と宿場馬を精巧に模倣した駅馬模型にそのなごりをとどめるのみである。また、堂内には上宿に居住した町絵師柴左一の書いた明治期の板橋遊郭千代本楼遊女道中の扁額が納められている。（いたばしの寺院より）

⑭ 観明寺 詳細地図 12ページ F-⑭参照



板橋区板橋3-25-1



真言宗豊山派の寺で、如意山観明寺と称します。御本尊は正観世音菩薩です。創建年代は暦応元年（1338年）と伝えられていますが、不明です。「新編武蔵風土記稿」には、延宝5年（1677）10月に入寂した慶浄が中興開山とあります。江戸時代、板橋宿の寺として、多くの人々の信仰を集めました。

明治6年、当時の住職照秀和尚は、町の繁栄祈願のために、千葉の成田山新勝寺から不動尊の分身を勧請しました。現在も出世不動と呼ばれて親しまれています。なお不動通りの名称は、このお不動様に由来します。境内に鎮座する稲荷神社は、もと加賀藩下屋敷内に祀られていた三稲荷の内の一社で、明治になって陸軍造兵廠が建設された際、当寺へ遷座されました。

また参道入口にある庚申塔は、貫文元年（1661）8月に造立されたもので、青面金剛像が彫られたものとしては、都内最古です。昭和58年度に板橋区の指定有形文化財になりました。（板橋区教育委員会掲示より）

⑮ 東光寺 詳細地図 12 ページ F-⑮参照



板橋区板橋 4-13-8



創建年次は不明です、寺伝によると延徳 3 年（1491）に入寂した天誉和尚が開山したといわれています。当初は、船山（現板橋 3-42）あたりにありましたが、延宝 7 年（1679）、加賀前田家下屋敷の板橋移転に伴って現在の場所に移りました。移転当時は、旧中山道に面した参道に沿って町屋が並び賑やかであったようです。しかし明治初期の大火や関東大震災による火災、そして第二次世界大戦による火災と、度重なる火災や区画整理のため現在では往時の姿をうかがうことはできません。なお山号の丹船山は、地名船山に由来しています。

境内には、昭和 58 年度、板橋区の有形文化財に指定された寛文 2 年（1662）の庚申塔と平成 7 年度、板橋区の有形文化財に登録された石地藏菩薩坐像、明治になって子孫が供養のために建立した宇喜多秀家の墓などがあります。（板橋区教育委員会掲示より）

⑯ 宗仙寺 詳細地図 13 ページ G-⑯参照



板橋区板橋 2-22-14



宗派は日蓮本宗で、本光山宗仙寺と称します。御本尊は、驥尾日守上人御筆の曼荼羅です。当寺は、延宝 5 年（1677）に、大坂天満の蓮興寺 5 世日順上人を開山に、本山京都要法寺の末寺として河内国若江村（現東大阪市）で創建されたのに始まります。開基は蓮興寺檀中の佐渡屋彦兵衛で、寺号は彦兵衛の法名「一心庵宗仙日慶」に由来します。その後、二百年あまりその地で法灯が守られてきましたが、明治 21 年（1888）になって、要法寺 50 世で当寺中興 1 世の日城上人により現在の地に移転してきました。続く 2 世日宝上人により本堂や庫裡などの建物が整備されますが、昭和 20 年 4 月 13 日の空襲ですべてが焼失してしまいました。昭和 44 年に本堂以下の建物が再建され、平成 14 年には本堂が新築されて現在の姿となりました。毎年、春秋の彼岸会や 8 月の施餓鬼会、10 月 12 日のお会式などの法会が営まれています。（板橋区教育委員会掲示より）

⑪子易神社 詳細地図 13 ページ G-⑪参照



板橋区板橋 2-19-20



御祭神木花開耶姫命

創建年代は不詳だが、境内地が延宝 2（1674）年の水帳に記載されており、創建はこれ以前に遡ると思われる。富士浅間神社の御分霊を勧請したと伝えられ、旧金井久保村の鎮守であった。江戸時代は、社号を子安宮または子安明神とも称し、安産・子育ての神として信仰を集めた。近くの福生寺が別当であったが、明治初年神仏分離により子易神社と改称した。

境内に祀られている子安観音は、明和 2（1765）年に造立されたもので、当社の別当寺であった福生寺に安置されていたが、同寺が廃寺になった際この地に移されたという。

神社入口にある胸突地蔵は、別名身代わり地蔵とも呼ばれ、元禄 8（1695）年に造立されたもので、もとは神社の裏手（現金井窪保育園）にあった。台座には「右上尾」「左河越」と刻まれており、道標にもなっていた。（板橋区教育委員会掲示より）・・・別当寺（べっとうじ）とは、神仏習合が行われていた江戸時代以前に、神社を管理するために置かれた寺のこと。神前読経など神社の祭祀を仏式で行い、その主催者を別当（社僧の長のこと）と呼んだことから、別当の居る寺を別当寺と称した。

⑫漆坊弁財天 詳細地図 13 ページ H-⑫参照



板橋区板橋 4-56-2



此の地三五の原に住んでいました私に、昭和三年の戌夜 与は此处加賀の下屋敷六万五千坪の弁天であるが今は跡形もなくなっている。そなたは此の地に再興せよとのお告げがありましたのでお祀りいたしました。

昭和十年区画整理の行なはれましたとき移転するようにと云われましたが、地主板谷様と話し合いの上末代まで此の地でこの弁天様をお守りするよう申され今日に至りました。

その後私が屋敷内の草取りをしておりますと、熊手と斧を持った翁が来て、おばさん此の弁天様は漆弁天とあるが漆ボウ弁財天と申すのだ。そのボウは田宮坊来郎の坊である。今後は漆坊弁財天とせよと申され姿が見えなくなりました。

本富に有難い弁天様で幸運及び厄除けの御祈禱を致しています。先達 岩本 一江・・・（御由来記より）







近隣の寺社（北区）

姥ヶ橋延命地蔵尊 北区上十条 4-12-4



この地蔵尊は、袈裟をまとい、右手に錫杖(しゃくじょう)を執り、左の掌に宝珠を載せ、正面を向いて蓮華座に立つ、安山岩系の石材を丸彫りした地蔵菩薩像です。台座には「享保九年（1724）甲辰天十一月吉日石橋供養」の銘文が刻まれています。向かって左側の室内には石造の子育地蔵尊がまつられています。説明板の横には、道しるべでもある小型の文字庚申塔と地蔵尊の由来碑があります。像は、「姥ヶ橋の地蔵様」と呼ばれて親しまれています。姥ヶ橋とは、稲付川に架かっていた橋の名称です。稲付川は石神井川の支流であり、根村用水とも北耕地川ともいって農業用水として利用されていました。姥ヶ橋には、誤って川に子どもを落して死なせてしまった乳母が、自ら責めを負ってこの橋から身を投げて命を落としたという伝説があります。そして地蔵尊の造立は、乳母の供養のためと伝えられていますが、銘文によれば川に架かる石橋の安全供養のためによるものです。また、地蔵尊は、2つの道が出合う地点にあったことから「出合地蔵」とも呼ばれています。橋のたもとは、川口への交通路としても利用された十条・板橋道と中山道から分かれて王子稲荷へ向かう王子道とが合流する交通の要所だったのです。現在は環状七号線の建設で川は暗渠となり、姥ヶ橋も姿を消しました。しかし、延命地蔵尊には参詣者の絶えることがなく、毎年8月24日の縁日には多くの人々で賑わいます。（北区資料より）

十条富士神社 北区中十条 2-14-18



十条富士塚(じゅうじょうふじづか)は、十条地域の人々が、江戸時代以来、富士信仰にもとづく祭儀を行って来た場です。現在も、これを信仰対象として毎年6月30日・7月1日に十条富士神社伊藤元講が、大祭を主催し、参詣者は、頂上の石祠(せきし)を参拝するに先だち線香を焚きますが、これは富士講の信仰習俗の特徴のひとつです。塚には、伊藤元講などの建てた石造物が、30数基あります。銘文によれば遅くとも、天保11年(1840)10月には富士塚として利用されていたと推定されます。これらのうち、鳥居や頂上の石祠など16基は明治14年(1881)に造立されています。形状は、古墳と推定される塚に、実際の富士山を模すように溶岩を配し、半円球の塚の頂上を平坦に削って、富士山の神体の分霊を祀る石祠を置き、中腹にも、富士山の五合目近くの小御岳(こみたけ)神社の石祠を置いています。また、石段の左右には登山路の跡も残されており、人々が登頂して富士山を遥拝し、講の祭儀を行うために造られたことが知られます。（北区資料より）

支え合い会議仲宿について

支え合い会議仲宿は仲宿地区の8町会（仲宿睦町会、宮元親興会 仲宿東町会、氷川町会、稲荷台自治会、栄町自治会、藤栄町会、JR 東日本十条社宅自治会）のメンバーの他、社会福祉協議会、東板橋おとしより相談センター（地域包括センター）、おとしより保健福祉センター、等の職員が参加しています。町会からのメンバーは、介護事業者、福祉の森サロン代表、民生・児童委員、老人会員等が参加しています。皆様の中でメンバーとして活動したい方がいれば是非参加して下さい。

定例会：第三火曜日 18:15～20:15 仲宿地域センター



で愛・ふれ愛・たすけ愛 支え合い 仲宿地区



地域の人がちょっと困っていること

電球の取り換え、お買い物、薬袋の受取、外出の付き添い、一緒に銀行に行って、お花の水やり、病院への付き添い、話し相手になって、部屋のお掃除、庭の草むしり、etc・・・



地域の人が、
支えてあげませんか



お問合せ：支え合い会議仲宿 事務局

〒173-0013 板橋区氷川町 47-9 ライオンズマンション大山氷川町 101

電話：070-2636-2275 FAX：03-5375-3312

e-mail：itabashi.sasaeai@gmail.com